

# 共観福音書

知っておきたいキリスト教のことば (56)

新約聖書には 4 つの福音書が収められています。そのうちの最初の 3 つ、マタイ・マルコ・ルカによる福音書を「共観福音書」と呼びます。

3 つの福音書を並べて読んでいくと、イエス様の活動や言葉について同じような記事が多く見られることに気づかされます。マルコによる福音書にある 91%の記事は、マタイ・ルカの両方、またはどちらかの福音書に書かれているそうです。そしてマタイ福音書の 50%、ルカ福音書の 40%の記事は、マルコ福音書と共通しているということです。



しかしそれぞれの記事を丁寧に比較してみると、福音書によって少しずつ書き方に違いがみられます。イエス様が荒野で誘惑された記事を見てみると、マタイ・ルカ福音書では三度の誘惑を退けたとありますが、マルコ福音書には具体的な誘惑の記述はありません。さらにその誘惑の順序も、マタイ福音書とルカ福音書では異なります。

現在の聖書学では、マタイ福音書とルカ福音書は、マルコ福音書を参考にして編集されたと考えられています。さらにマタイ・ルカに共通する資料 (Q 資料) や、マタイ・ルカそれぞれの個別の資料があったのではないかと考えられています。そして編集の場面で、それぞれの著者や共同体が伝えたかったことが強調されたと考えられています。

例えば、マルコ福音書のイエス様は人間としての面が強調され、マタイでは律法の完成者、そしてルカでは悔い改めを促す方として、描かれているという特徴がみられます。

わたしたちが聖書を読むとき、福音書によって少しずつ違ったイエス様の姿に出会います。そのことで、ある物を三次元で見るように、イエス様のことを立体的に感じる事が出来るのではないのでしょうか。

次回は「共同体」です。お楽しみに。